



大竹中学校だより

〒739-0614 広島県大竹市白石一丁目 8-1
☎(0827)52-5177 Fax(0827)52-5178
【HP】members.fch.ne.jp/otakejhs/



-いのち輝く学校-
令和5年3月6日(月)
第42号
大竹市立大竹中学校
校長 十亀 琢磨

☆☆「大竹中学校だより」カラー版は、大竹中学校ホームページでご覧いただけます。☆☆

1-2ハートプロジェクト「HEIWAの鐘」に込められた思い

私達1年2組は、文化祭で「HEIWAの鐘」という歌を歌いました。私達は「HEIWAの鐘」を歌う前に歌詞にどんな意味が込められているのか、どう歌ったらいいかを考えました。この歌は、第2次世界大戦で唯一の地上戦が行われた沖縄の人達の歌です。特に「脅かすことでしか守ることができない」という歌詞が印象に残っています。戦争は言葉を使って解決するのではなく、武器を使わないと解決できないものになっているからです。

本番では、歌詞一つ一つに込められた思いや願い、訴えが聞く人に伝わるように、響くようにと、一人一人が戦争や平和について思っている自分の気持ちを歌にのせて、気持ちを込めて歌いました。

この歌は明るく高い音が多いですが、戦争は本当に残酷なものでした。1945年3月～6月の間、沖縄では日本で唯一の地上戦が行われました。これは、広島原爆投下の数カ月前の出来事です。沖縄戦は日本の国土を守るための時間かせぎのためのものでした。これを捨て石作戦といいます。アメリカ軍54万人の大軍が、沖縄諸島を包囲して、上陸作戦を行いました。日本軍は10万人で、そのうち3分の1は現地で集めた人々であり、中学生も女学生も動員されました。

1945年、アメリカ軍の侵略が進んだことで、逃げ場を失った住民は、集団で自決するようになりました。原因は、当時人々は天皇のために戦場で死ぬことは名誉なことだと思っていたけど、戦争から逃げたい気持ちや死にたくないからといって、殺されないようにアメリカ軍の命令に応じると、日本軍からスパイと見なされ処刑されることもあったことから集団自決が多発するようになりました。翌月には、アメリカ軍が沖縄本土に上陸し、すさまじい攻撃を受けました。次の月には、アメリカ軍にとうとう軍司令部を占領されました。日本軍や住民達は南部に逃げ、アメリカ軍による攻撃が続く中、日本軍による日本の住民殺害も起こりました。なぜこのようなことが起こったのかというと、ガマという軍人が治療を受ける場所から追い出すため、また、子供は泣くと、アメリカ軍に見つかるという理由で殺されました。そして、6月23日、日本のトップが自殺しました。このことにより、沖縄戦が終わりに向かいました。この戦争では、約20万人の人が犠牲になり、県の人口の4人に1人が犠牲になりました。これは大竹中の生徒で表すと2クラスと半分の人がなくなったことになります。

1年2組で沖縄戦について学習して、考えたことは、

○「生きたい、生きぬきたい」ではなく、「もう死にたい」という人の方が沢山いることが不思議だったし、驚きました。また、「戦争をしないために言葉がある、言葉で解決しないなら言葉はいらない」という言葉に衝撃を受けました。

○沖縄戦では兵士だけでなく市民や幼児などたくさんの方が死んでしまい、死ぬのが当たり前になっていたことが分かりました。その当時のことを想像すると恐ろしいなと感じました。でも、まだ世界で戦争などが残っているので、戦争は昔のことではなく、現在も起きているんだなと感じました。私達は、戦争のことについて知り、絶対に戦争はあってはならないということをたくさんの人に伝えることが私達にできることかなと思いました。

○いつもの家族や友達との楽しくて平和な毎日がなくなり、命を奪われてしまうという計り知れない地獄のようなことだと改めて思いました。まだ戦争のことを知らない人に伝えて、ずっと未来につなげたいです。



発表を聞いての感想の紹介



私も沖縄戦について調べたことがあります。アメリカ軍に脅される毎日で、住民たちが自殺や迷惑な人々は殺害されると聞いて、みんなその時に必死だったんだと私は思います。

まだ言葉ではなく、武器で解決している国があると考えると、少し残酷に思います。

このハートプロですごく多くのことがわかりました。私は聞くだけではなく、それを伝えていこうと思いました。(1年1組)

戦争は本当に恐ろしいことがわかりました。

戦争は、武力で解決させるのではなく、言葉で解決するほうが絶対にいいなと思いました。沖縄戦の死者を、学校のクラスで例えると、2つのクラスと半分の人が亡くなることを聞いて、戦争はとてもつらいことだし、悲しいなと思いました。

戦争がなくなるように、いろいろな国が言葉で解決してほしいです。(1年2組)

今、自分達がいつもあたりまえのようにしている生活も、あたりまえではないことが分かった。1日1日を自分なりに大切に生きていきたいなと思った。言葉で解決しないなら、言葉はいらないというのが一番心に残った。育った環境、国が違えば、考え方も違うと思うけど、話し合いで解決できることはあると思うので、戦争のように多くの人の心に傷をつける争いをせず、話し合いで解決できる世界になればいいなと思った。(1年3組)

戦争がなくなり、平和になったのかというところではなく、現在でも世界各地で紛争が起こっていて、たくさん人の命が奪われていると思いました。沖縄戦では、数十万という数のアメリカ軍と国民が戦わされ、その中に中学生や小学生も含まれていると思うと戦争というのはとても悲しいものだなと思いました。人の欲が原因で戦争は起き、それが大きくなると核兵器を使ってしまおうと思いました。(2年1組)

戦争の恐ろしさがわかりました。沖縄で起きた戦争をくわしく聞いたのははじめてで、「生きたい」という人より「死にたい」と言って、自分で自分の命をなくしてしまうようにしていたことにびっくりしました。それぐらい戦争はつらいことがわかりました。まだ戦争が世界で起こっていると思うと心が痛くなるし、「言葉で解決できないから武器を使う」という考えがなくなっほしいと思いました。(2年2組)

戦争はあってはならないことですが、現実には非情でやはり、お互いの正義と利得がぶつかり合うときに戦争は起こります。沖縄の集団自決もきっとそれに当てはまるでしょう。いつかの二つが根本的になくなるか、変えるかしないと、戦争はまたいつか起こると思います。平和と戦争は紙一重ということがわかりました。(2年3組)

当時は、死ぬことがあたり前のような世界で、「生きたい」と願う人よりも「もう死んでしまいたい」と思っている人の方が多いことが、当時の生活の残酷さを物語っていると思いました。今の日本は、人々が協力して支え合い、命の尊さを理解できる世界だけれど、この時代は、人間や生き物の命はすべて平等で尊いものだという考え方がない世界だったのだと考えると、怖くて仕方ありません。しかし、他の国では、戦争という概念がまだ残り、今も戦争は存在しています。このことをきちんと理解し、自分たちに何ができるかを考えていきたいです。(3年1組)

沖縄戦はとても残酷なもので、忘れてはならない出来事だと思った。多くの人の命が奪われて、そのようなことは今も世界で起きていて、悲しい。沖縄戦を知るだけでも、戦争がどれだけあってはならないものか、理解することができた。戦争は民族や宗教の違いなどで起こるもののため、失くすことは難しいが、必ず減らしていかなければいけないと思った。(3年2組)

戦争というのがなくなる世界になれな良いなと強く思いました。今私達は平和に過ごしているけれど、それが当たり前の事だと思うことなく、戦争は絶対にしてはいけないということを次の世代にも理解してもらおう、受け継いでもらうことが必要だと思いました。今戦争していないから大丈夫という油断はしてはいけないし、他国で起こっている戦争についても理解する必要があるなと思いました。(3年3組)